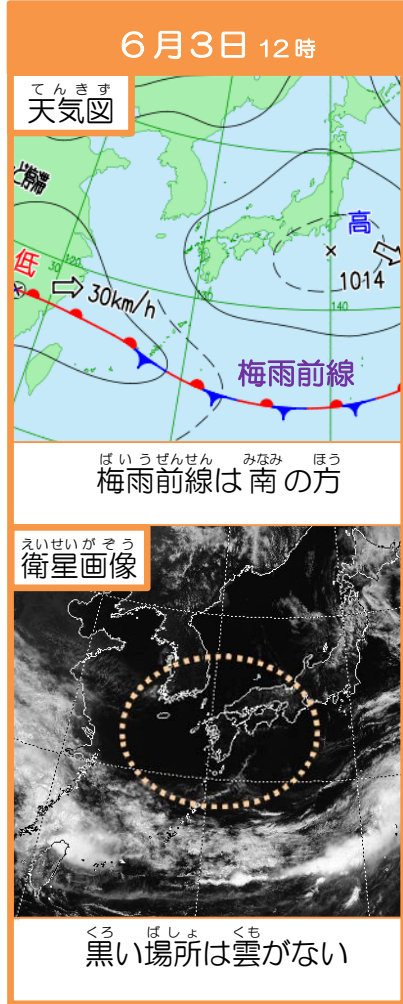
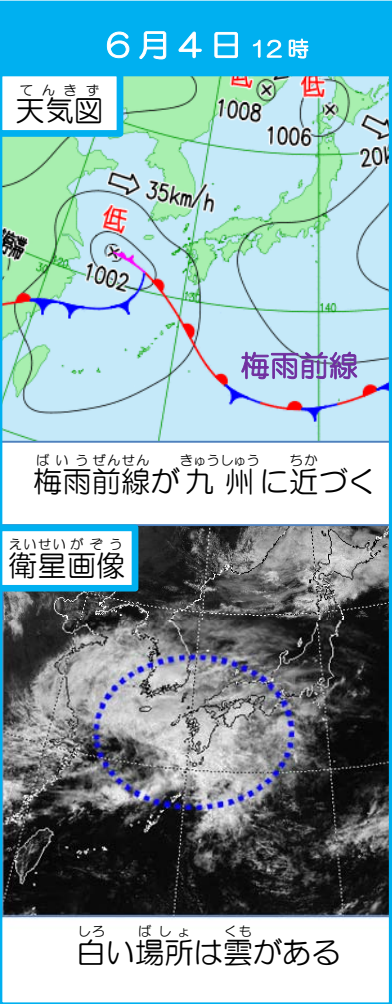


梅雨と大雨

梅雨

6月から7月にかけての梅雨の時期は、雨やくもりの日が多くなります



福岡管区気象台は、「九州北部地方は、6月4日ごろに梅雨入りしたと見られます。」と発表しました。

梅雨は、春の終わりにから夏にかけて雨やくもりの日が多く現れる現象で、日本や中国など(東アジア地域)で見られます。

福岡県などの九州北部地方は、6月と7月が梅雨の時期にあたり、毎年だいたい同じ時期に梅雨を迎えます。

左の図で見ると、九州のちかくに梅雨前線が近づいてくると、雲におおわれてくることが分かります。

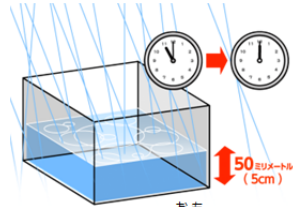


2016年	6月7日	火曜日
平成28年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

<<お天気 Q&A>>

Q: 1時間に50mmの雨とは、どのくらいの雨ですか?

A: 1時間に50mm、つまり5cmの高さまで雨水がたまるような雨です。



たった5cmと思いますが、運動場にふった雨を集めるとプールに1mの深さまで水がたまることになります。

運動場は縦85m、横70m、プールは縦25m、横12mで計算しました。

みなさんの学校や町にふった雨では、どのくらいになるか計算してみましょう。

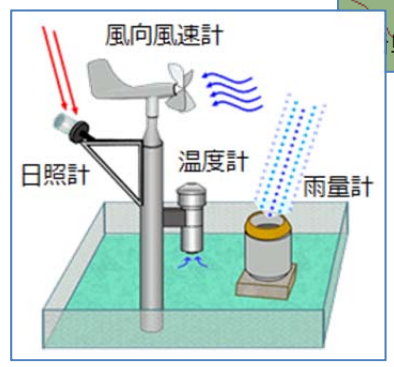


どのくらい雨がふったかを知ることができます

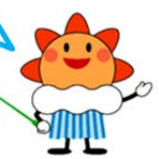
アメダス

みなさんの学校では、百葉箱という白い箱で毎日気温などを測っていませんか。気象台では、アメダスという装置で自動的に気象の観測をしています。

全国各地で測られた気温や雨量はすぐに気象台に集められて、今ここで雨がふっているのか、気温はどのくらいのか見ることが出来ます。アメダスは全国に約1300か所、福岡県にも20か所あって、みなさんもテレビやインターネットなどで見ることも出来ます。



17kmくらい歩けば、別のアメダス観測所にたどりつくよ



注意 大雨がふると、集まった大量の水が川からあふれて、街や畑が水びたしになります。また、雨は流れるだけではなくて地面にもしみこみます。たくさんしみこむと崖や山がくずれて、土や岩が家や道路をおし流すことがあります。

大雨がふる前に安全な場所に避難することが一番大切ですが、大雨がふりはじめて危険を感じたら、無理をせず家の2階や崖とは反対側の部屋に逃げましょう。



福岡県の大雨ベスト3 1日にふった雨で比べると...

- 1位: 415mm【黒木(八女市)】 2012年7月14日...平成24年7月九州北部豪雨のとき
 - 2位: 344mm【英彦山(添田町)】 2005年9月6日...平成17年台風第14号(宮崎県でも大雨)
 - 3位: 315mm【太宰府(太宰府市)】 2003年7月19日...平成15年に博多駅が浸水したとき
- ベスト3のうち2つが梅雨におきていることから、梅雨は大雨になりやすいことが分かります。

気象情報へのアクセス

アメダス	検索	QRコード
アメダス	検索	
雨のふっている場所は	検索	QRコード
ナウキャスト	検索	